

2026 年度 全日本中学生柔道形競技大会 岡山県予選会 開催要項

1 主 催 岡山県柔道連盟

2 種 目 ①投の形(手技、腰技、足技のみ) ②固の形(抑込技のみ) ③柔の形(第一教のみ)

3 出場資格

- (1)2026 年度の全日本柔道連盟登録を岡山県から行っている中学生とする。
- (2)所属先について、特に制限は設けない(中学校所属と柔道クラブ所属のペアでも出場可)。
- (3)一人が複数種目へ出場することは認めない。
- (4)参加にあたり、段位の取得は問わない(白帯でも参加可)。
- (5)男女組での参加も認める。

4 競技方法

- (1)「講道館柔道形競技規定」および「講道館柔道形競技規定に関する申し合わせ事項」(別紙参照)を追加して実施する。
- (2)本競技大会は、あらかじめ撮影された形動画を審査する「録画審査方式」にて実施する。
- (3)本大会は、一組の各選手が取と受の両方をそれぞれ行うこととする。
「取(A)・受(B)」「取(B)・受(A)」の2種類の演技を撮影し、両方の画像をDVDに録画する。
※参加各組につき、2つの動画(同一ペアによる取受を交代したもの)が必要となる。

5 服 装 柔道衣に関しては全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣(上衣、下穿、帯)を着用すること。

6 ゼッケン 下記の要領で背部にゼッケンを縫い付けること。

- (1)ゼッケンのサイズは縦 25～30 cm、横 30～35 cmとし、後襟から 5～10 cm下部に縫い付ける。
- (2)ゼッケンの上部 2/3 に苗字、下部 1/3 に団体名を表記する。
- (3)書体は太いゴシック体、または明朝体で男子は黒色、女子は赤色とする。

7 審 査

提出された映像を岡山県柔道連盟が審査し9月27日(日)までに選考結果を各出場組申込責任者へ連絡する。各形1位を全国大会出場組とする。

※全日本中学生柔道形競技大会も「録画審査方式」である。

8 参加申込

- (1)申込期限 令和8年9月18日(金)までに岡山県柔道連盟事務局までDVDを提出すること。
画像は5GBを超えない容量とする。提出するDVDのレーベル部分に、所属名、責任者、携帯番号、メールアドレスを明記すること。
- (2)提出先 岡山市北区いずみ町 2-1-8 岡山武道館内 岡山県柔道連盟事務局
※提出されたDVDは返却しない。

9 その他

- (1)別紙【中学生】柔道形競技大会(録画審査方式)動画撮影要領に従って動画を撮影すること。録画した動画はDVDに保存して提出すること。
- (2)演技撮影時における怪我等に関して主催者は一切の責任を負わない。
- (3)全日本中学生柔道形競技大会への参加申込み料1組 2,000 円は岡山県柔道連盟が負担する。

公益財団法人全日本柔道連盟 講道館柔道形競技規定

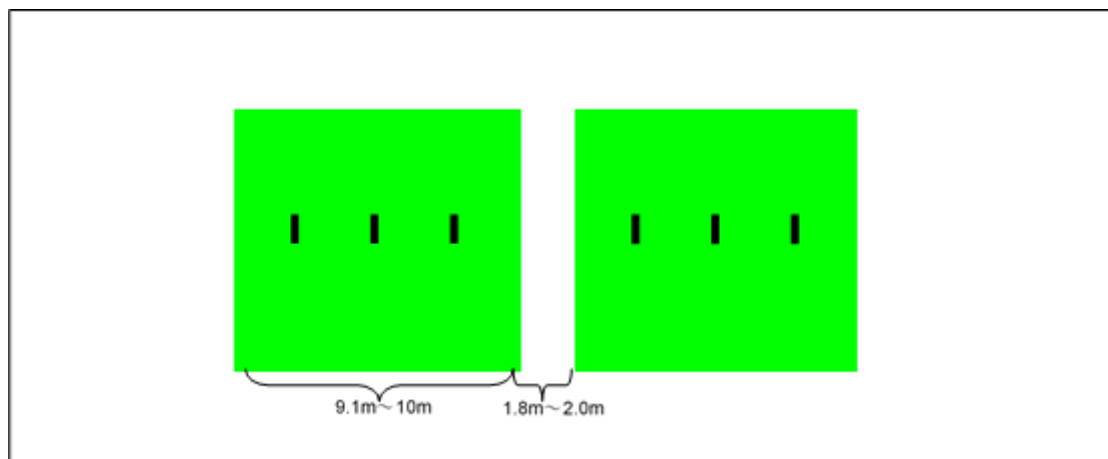
(形の種類)

第1条 形の種類は、講道館の制定する投の形、固の形、極の形、柔の形、講道館護身術、五の形、及び古式の形とし、講道館の発行する最新版の教本、及びDVD映像で規定する動作を基準とする。

(試合場)

第2条 試合場は原則として最小限 14m×14m、最大限 16m×16mとし、この中央に最小 9.1m（五間）×9.1m、最大 10m×10mの場内を設け、畳又はこれに類するものを敷き詰める。

2. 取と受が演技の始めと終わりに立礼又は坐礼をする位置を示すために、下図のとおり試合場の中央 5.5m～6m 離れた場所に、幅約 10cm、長さ約 50cm の色のついた粘着テープを付ける。
3. 試合場の中央にも下図のとおり同色の粘着テープを配置する。
4. 試合場の床は弾力性がなければならず、隣接して試合場を設置する場合、下図のとおり 1.8m～2mの共通する安全地帯を設ける。



(得点表示)

第3条 演技者（組）の得点は、会場の適切な場所に速やかに表示する。

(服装)

第4条 柔道衣および帯は、全日本柔道連盟柔道衣規格に合格しているものでなくてはならない。ただし、紅帯、紅白帯はその限りでない。

(衛生及び危害防止)

第5条 演技者(組)は清潔な柔道衣を着用し、爪を短く切ること。また金属その他相手に危険を及ぼすようなものは身に付けてはならない。長髪の場合は、動作の妨げにならないように束ねること。

(演技順序)

第6条 演技の順序は抽選で決定する。

(審査及び審査員)

第7条 審査は、一種目の形を、その種目の全日本柔道連盟公認形審査員5名で行う。

2. 審査員は、評価した点数を公式採点票に明記する。
3. 審査する位置は、原則として正面側とし、審査員は1mの間隔をあけて審査員席に着く。但し、場合によっては審査する位置を変えることができる。
4. 審査員は、各組が試合場に入る前に、決められた席に着いていなければならない。
5. 審査員が着席する位置は、その種目が終了するまで変えないものとする。
6. 主任の審査員は、立って両掌を上にして両腕を前方へ伸ばし、演技者(組)を試合場へ進むよう指示する。
7. 審査員の服装は、大会の規定によるものとし、公認のネクタイ及びエンブレムをつけるものとする。
8. 本連盟教育普及・MIND委員会形部会は、審査員の管理、監督等を行う。

(審査方法)

第8条 演技者(組)による演技(礼法・服装、技の内容、全体の流れ)を審査する。

2. 10点満点で評価する。
3. 1回のみの演技を審査する。
4. 各における5人の審査員の評点のうち、最高点と最低点を除いた3人の審査員の評点の合計(小計)をその施技の得点とする。最高点又は最低点が複数(例; 7, 7, 6, 6, 6)あった場合、除く点はそれぞれ1つとする(例; 7を1つ、6を1つ除く。この場合は、 $7 + 6 + 6 = 19$ 点がその組の得点となる)
5. 順位は以下の順に従って決める。
 - (1) 各評価項目の得点を合計し(=合計点という)その高い方を上位とする。
 - (2) 合計点が同点の場合

- 1) 各評価項目の評点（＝最高点と最低点を除いた評点）を見て、より低い評点のある方を下位とする。
 - 2) 同内容の場合、1) のより低い評点の個数の多い方を下位とする。
 - 3) 同内容の場合、各評価項目の評点（＝最高点と最低点を除いた評点）を見て、より高い得点のある方を上位とする。
 - 4) 同内容の場合、3) のより高い評点の個数の多い方を上位とする。
 - 5) それでも同内容の場合、同位とする。
6. 得点は合計点と 100 点換算（小数点第 2 位以下切り捨て）の 2 つを表示する。

（審査基準）

第 9 条 審査員は、下記の内容を参考にして総合的に評価をする。

（1）礼法・服装

礼法 立礼、坐礼、姿勢、目付、呼吸等

服装 服装の乱れ、帯・紐の解け等

（2）技の内容

基本動作 基本動作、姿勢、態度、組み方、進退動作、体捌き、受身等

技の理合い 正確度（崩し・作り・掛け）、緩急、強弱、気迫、迫真性、順序

受身等位置の取り方 位置、相手との間合い等

（3）全体的な流れ リズム、テンポ、調和等

2. 評価の判断基準

評価の判断基準は、次のとおりとし、0.5 点刻みにて評価する。

- （1）非常に優れている 9 点～10 点
- （2）優れている 7 点～8.5 点
- （3）普通である 5 点～6.5 点
- （4）劣る 3 点～4.5 点
- （5）非常に劣る 0.5 点～2.5 点

3. 間違いがあった場合の評点について

（1）次の場合は合計点を 2 分の 1 とする。

- 1) やり直した場合、その技及び全体の流れの評価はそれぞれ 4.5 点を最高点とする。
- 2) 武器を落とした場合、その技及び全体の流れの評価はそれぞれ 4.5 点を最高点とする。

(2) 評価項目以外の技を演技した場合、その技は0点とする。

(失格)

第10条 第4条、第5条等に違反した場合。

2. 演技者(組)が施技の順序を間違えた場合、及び技を抜かした場合においては、演技を中断せず、その組の演技終了後に、審査員が合議し、適切に処理する。

(負傷/病気等の発生(安全への配慮))

第11条 演技者(組)において、演技中、怪我又は病気等が発生した場合、審査員は原則として直ちに演技を中止させ、記録は「棄権」とする。

2. 演技者(組)が演技中においてコンタクトレンズを落とした場合、審査員が演技を続けられないと認める場合には直ちに演技を中止させ、記録は「棄権」とする。

(抗議の禁止)

第12条 審査員による審査結果は絶対であり、異議の申し立ては認められない。

(その他)

第13条 本規定に定められていない事態が発生した場合、審査員は、大会委員長と合議の上、処理する。

(改廃)

第14条 本規定の改廃は、教育普及・MIND委員会形部会で検討し、理事会の承認を得て行うものとする。

附則

1. 本規定は、平成25年4月1日から施行する。
2. 本規定は、平成26年6月16日から一部改正して施行する。
3. 本規定は、平成27年4月1日から一部改正して施行する。
4. 本規定は、平成29年6月9日から一部改正して施行する。
5. 本規定は、令和2年8月18日から一部改正して施行する。

「講道館形競技規定に関する申し合わせ事項」2018年1月20日

形部会

I 演技の評価

- 1 間違いが演技の一部であり許容できる場合は、「劣る」あるいは「非常に劣る」(4.5~0.5)を与える。
- 2 演技として本来あるべき要件や性質が欠けている場合は、評価項目「技」、「全体の流れ」の両方に「劣る」あるいは「非常に劣る」(4.5~0.5)を与える。さらに集計担当者は合計点を半減する。
- 3 “本来あるべき要件や性質が欠けている”とは、攻撃部位や極める技が異なる、投げる方向が明らかに異なる、など理合いから大きく外れる場合を指す。
- 4 当身や武器が実際に相手に当たった場合は、「劣る」あるいは「非常に劣る」(4.5~0.5)を与える。過度と判断される場合は、2の場合に準じて総点を半減する。

II やり直し

1 順序

(1) 定義

☞ 本来の順番でない技を行なうか、あるいは途中で間違いに気づき、本来の技を始める。

(2) 事例

①投の形

「浮腰」の次に「払腰」を抜かし「釣込腰」を演技し、「払腰」からやり直すか、あるいは「浮腰」の次に「釣込腰」をし始めたが、途中で「払腰」に戻って演技した場合。

②固の形

「裸絞」の次に「送襟絞」を抜かし「片羽絞」を演技し、「送襟絞」からやり直すか、あるいは「裸絞」の次に「片羽絞」をし始めたが、途中で「送襟絞」に戻って演技した場合。

③極の形

「突掛」の次に「突上」を抜かし「摺上」を演技し、「突上」からやり直

すか、あるいは「突掛」の次に「摺上」をし始めたが、途中で「突上」に戻って演技した場合。

④柔の形

「胸押」の次に「突上」を抜かし「打下」を演技し、「突上」からやり直すか、あるいは「胸押」の次に「打下」をし始めたが、途中で「突上」に戻って演技した場合。

⑤講道館護身術

「両手取」の次に「左襟取」を抜かし「右襟取」を演技し、「左襟取」からやり直すか、あるいは「両手取」の次に「右襟取」をし始めたが、途中で「左襟取」に戻って演技した場合。

⑥五の形

順番の間違いは想定できない。

⑦古式の形

「水流」の次に「曳落」を抜かし「虚倒」を演技し、「曳落」からやり直すか、あるいは「水流」の次に「虚倒」をし始めたが、途中で「曳落」に戻って演技した場合。

(3) 採点票の事例

1) 1つ抜かして、そのまま本来の順序で終わりまで演技した場合。

☞⑤番目の欄に⑤ではない技、⑥が行われたとき。⑤欄は「0」。⑥番目の欄に⑦の技が行われたら、⑥欄には、「0」。

☞審査員は単純に実施番号の評価欄に妥当な技が行われたかどうかを判断する。

技名称			評点	間違いの有無	演技内容
腰 技	⑤	払 腰	0	抜かす	⑥
	⑥	釣込腰	0	別の技	⑦
足 技	⑦	送足払	0	別の技	⑧
	⑧	支釣込足	0	別の技	⑨

2) 1つ抜かしてから気づいて、抜かした技からやり直した場合。

- ☞⑤番目の欄に⑤ではない技、たとえば⑥が行われたとき。⑤欄は「0」。
次の⑥番目の欄に⑤の技が行われたら、順序間違えとして⑥欄は「0」。
⑦番目の欄に⑥の技が行われたら、⑦欄は「0」。

技名称			評点	間違いの有無	演技内容
腰 技	⑤	払 腰	0	抜かす	⑥
	⑥	釣込腰	0	別の技	⑤
足 技	⑦	送足払	0	別の技	⑥
	⑧	支釣込足	0	別の技	⑦

3) 2つ抜かして演技して気づき、抜かした技から順にやり直した場合。

- ☞⑤番目の欄に⑤ではない技、たとえば⑦が行われたとき。⑤欄は「0」。
⑥番目の欄に⑥ではない技、⑤が行われたので⑥欄は「0」。⑦番目の欄に⑥の技が行われたら、⑦欄は「0」。

技名称			評点	間違いの有無	演技内容
腰 技	⑤	払 腰	0	抜かす	⑦
	⑥	釣込腰	0	別の技	⑤
足 技	⑦	送足払	0	別の技	⑥
	⑧	支釣込足	0	別の技	⑦

注)「間違いの有無」欄への記入は、メモ程度も可とする。この事例の“別の技”は便宜上使用している。

2 位置

(1) 定義

- ☞ 各技本来の位置取りを行わず演技したり、一旦決めた位置を修正する。

(2) 事例

①投の形

次の技の位置でないところに立ち止まり、その後移動して本来の位置に立った場合。

②固の形

取が近間から間違って遠間に退いた場合。

③極の形

受が「横打」で約90センチメートルで相対し、間違いに気づき遠間に移動した場合。

④柔の形

「打下」で約1歩の間合いで相対し、間違いに気づき約2歩の間合いに移動した場合。

⑤講道館護身術

間違えて反対側に立ってから、気づいて本来の位置についた場合。

⑥五の形

3本目が終わって、取と受の位置が逆のまま、4本目を始めた場合。

⑦古式の形

間違えて反対側に立ってから、気づいて本来の位置についた場合。

3 動作

(1) 定義

☞ 各技本来の動作を行わず、途中で本来の動作を行う。

(2) 事例

①投の形

「払腰」の動作で受の腋に手を差し入れるところを行わず、途中で間違いに気づき本来の動作を行った場合。

②固の形

取が受の腕を持ち上げた後に、戻した場合。

受が右手で取の襟を取ろうとしたが、途中で間違いに気づき、左手で本来の動作を行った場合。

③極の形

当身等で攻撃の準備動作に入ったと認められる動作（実は他の技の動作）を、本来の技の攻撃準備動作に修正して施したと認められる場合。

④柔の形

「肩廻」で受が取の体を左へ回す動作をするところ両手を上方に挙げ、途中で間違いに気づき本来の動作を行った場合。

⑤講道館護身術

「顎突」で、取が受の手首を掴み損ね、再度本来の動作を行った場合。

⑥五の形

「一本目」で取が受を後方へ押し崩すため左足から進み出し、途中で間違いに気づき本来の動作を行った場合。

⑦古式の形

「水流」で受が左手で襟を掴みに行くところ右手で掴みに行き、途中で間違いに気づき本来の動作を行った場合。

【中学生】柔道形競技大会（録画審査方式） 動画撮影要領

Ⅰ. 動画撮影について

（Ⅰ）服装

- ①柔道衣に関しては全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣、下穿、帯）を着用すること。
柔道衣は取受ともに白とする。男子のインナー着用は不可とし、女子のＴシャツは白とする。
- ②所属を示すゼッケンのある柔道衣とする。
- ③長髪の場合は、動作の妨げにならないように束ねること。

（Ⅱ）撮影範囲・位置取り

- ①四間の間合い時に被写体が途切れることのないようにカメラの位置を調整すること。
※場外での取受両方の立礼が入る位置をフレーム幅の基準とする。演技中は、四間の間合い時（両者の距離約 7.3m）に被写体が途切れることがないように撮影すること。
※逆に四間を大幅に超える場合は、演技映像が小さくなってしまうので注意すること。
- ②カメラの位置は概ね立礼時の演技者の帯～頭（上半身）を目安に高さを設定し、必ず固定して撮影すること（ズームなども行わない）。固定する際、演技者とカメラが水平であることを確認すること。
- ③映像には演技者以外の人物や演技以外の音声が入らないようにすること。
- ④逆光など映像が鮮明に映らないような要素は極力排除すること。
- ⑤すべて正面側から撮影すること。
※カメラの方向に向かって「礼」を行う。
※取と受の位置を間違えないこと
- ⑥道場によって試合場や畳の大きさが異なる場合もあるため、そのような場合は場外での礼法位置を縮めても構わない。但し、場内での礼法位置は３間（もしくは中央から約 275 cm）を守ること。

図１ 望ましい撮影範囲①（32 畳）の場合



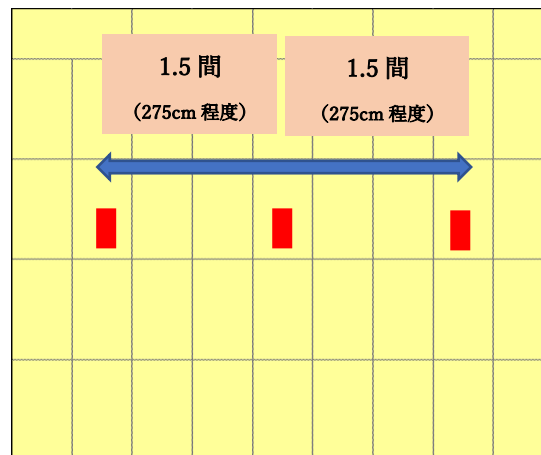
図２ 望ましい撮影範囲②（50 畳の場合）



(3) ラインテープ

- ①取と受が演技の始めと終わりに立礼又は坐礼をする位置を示すためにラインテープを貼ることとする。ラインテープは幅約 10 cm、長さ約 50 cmとする。
- ②テープ色は畳の色と同色を避けていけば問わない。
- ③中央（前後左右の中心）にテープを貼る。
- ④中央から一間半（約 275cm）空けた位置にテープの外側を合わせる。
- ⑤演技者はテープの外側につま先を合わせる（テープは踏まない）
- ⑥道場によって試合場や畳の大きさが異なる場合があるため、原則として、畳の枠で合わせず、中心からの距離でテープを貼ることとする。

図3 ラインテープの位置（40.5 畳の場合）



(4) 動画

画質による審査への影響を排除するため、動画の規格を以下に定める。

- ①解像度は 1920×1080 以上であること。
- ②動画のフレームレート (fps) は概ね「30 もしくは 60」であること。
- ③①②を満たしていれば、録画する機器は指定しない。
- ④動画は未編集のものとする。但し、「演技前の『場外での受取両方の立礼』」から「演技後の『場外での受取両方の立礼』」以外は切り取ってもかまわない。
- ⑤解像度やフレームレートの確認方法は端末で異なるため、取扱説明書や web で確認すること。
- ⑥1 つのファイルのアップロード容量上限が 5GB を超えないこと。

【動画の画質確認方法】

【windows】

- ①動画ファイルを右クリックし、プロパティを開く
- ②「詳細」をクリックする
- ③「フレーム幅」「フレーム高」「フレーム率」を確認する

【mac】

- ①動画ファイルを右クリックし、「情報を見る」を選択する
- ②「大きさ」を見ると解像度が確認できる

2. 補足

(1) 所属団体での動画撮影と動画データの取り扱いについて

学校において教員による撮影が難しい場合は、各都道府県柔道連盟と連携し撮影を行うこと。

学校で撮影する場合には、器材の持ち込みや撮影活動について、事前に学校側に確認を行い、承認を得ること。

なお、必ずしも所属団体の道場で行う必要はない。

(2) 動画データの取り扱いについて

撮影した動画データは大会終了まで保管し、関係者（選手、保護者、当該選手の指導者、その他の許可された者）以外の者への拡散は認めない。

映像の管理責任は、各都道府県柔道連盟が負うこととする。

3. 撮影参考動画

2025 年度全日本学生柔道形競技大会（第 4 回）※各種目優勝ペア演技

投の形： <https://youtu.be/7NIE6SA1mqc>

固の形： <https://youtu.be/3DWwgKMxf5A>

柔の形： <https://youtu.be/S4GyjWACkdQ>

※撮影の方向や角度、画質等について参考にしてください。